

「スズメバチの同定 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

高原での「山荘暮らし」は「虫との闘い」とも言える。多いのは「カマドウマ」「カメムシ」「ハサミムシ」大小の「ガ」「クモ」それに「ウシアブ」といったところだ。カマドウマはしつこいだけで害はない。カメムシもいじめない限りにおわらない。ハサミムシは隙間に入り込むが、特に実害はない。ガも慣れれば美しいと思えてくる。「コガタツバメエダシャク」や「トラフツバメエダシャク」などは、芸術的に美しい。

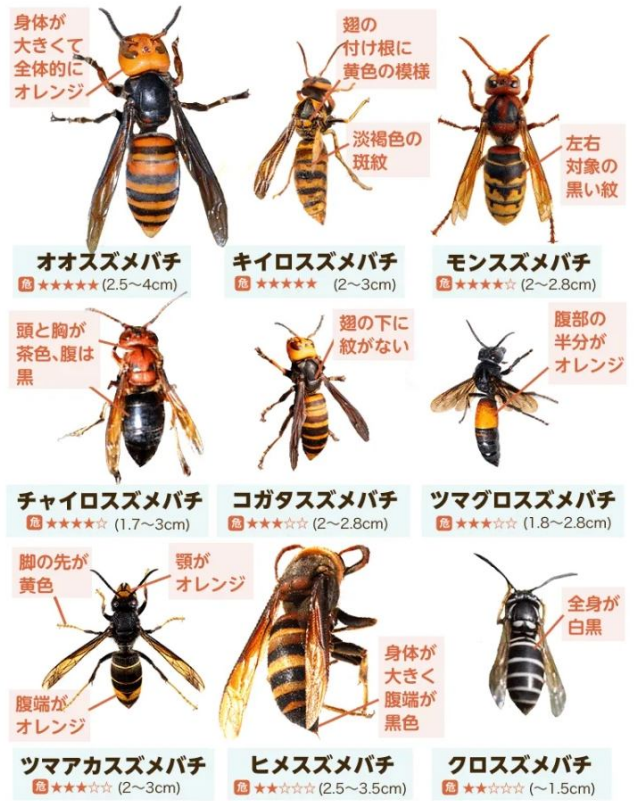


クモ類は、屋内にも巣を作るので困りものだが、「クモの巣ジェット」というスプレーを、壁面の角にかけておくと、巣を作れなくなる。ウシアブは、自動車の排気ガスの二酸化炭素につられて寄ってくるが、めったに刺すことはない。尚、このあたりにはゴキブリはほとんどいないようだ。私は一度も見っていない。

唯一、本当に困るのが「スズメバチ」だ。先日の夜間、寝室に1匹飛び込んできて、パニックになった。



幸い、部屋の隅の古いクモの巣に自分からひかかって、ジタバタしているところに、普通の殺虫剤をかけたら、おとなしくなった。スズメバチには、「ハエ・カ用の殺虫剤」は効果が薄いことが多いのだが、幸い効いたようだ。スズメバチは種類が多く、飛翔中のものを見ただけでは同定は難しい。今回は遺骸が目の前にあるので、正確に同定できそうだ。



これはあるホームページに載っていた、「スズメバチの見分け方」だ。いろいろ見たが、これが一番わかりやすいように思った。



今回捕獲したものは、大きさ、模様、体毛などから「キイロスズメバチ」と同定できた。スズメバチは恐ろしいが、こうしてよく見ると、実に美しい。